

## 社会資本整備総合交付金事業 一宮海岸 侵食対策

平成26年1月15日

千葉県 県土整備部 河川整備課

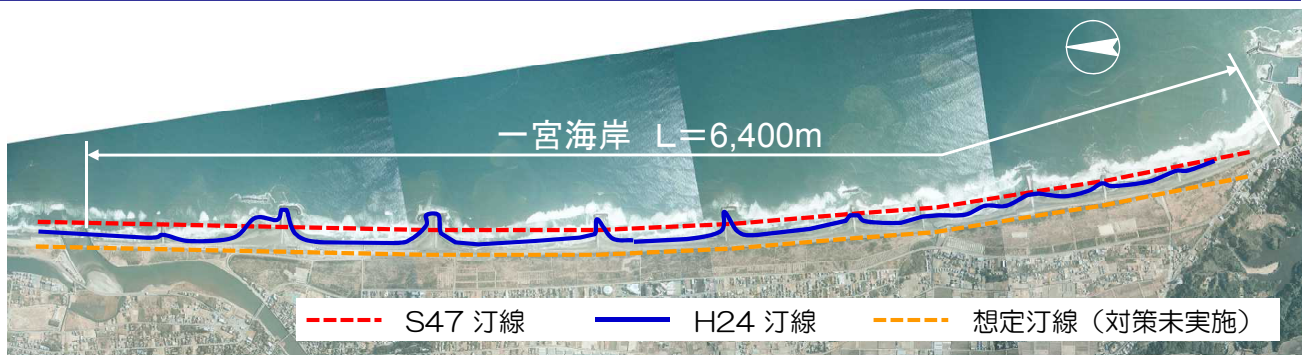
1

## 目次

1. 事業の概要
2. 事業の進捗状況
3. 社会的情勢
4. 事業投資効果
5. 事業の進捗見込み
6. コスト縮減
7. 対応方針(案)

2

# 1. 事業の概要（事業箇所）



3

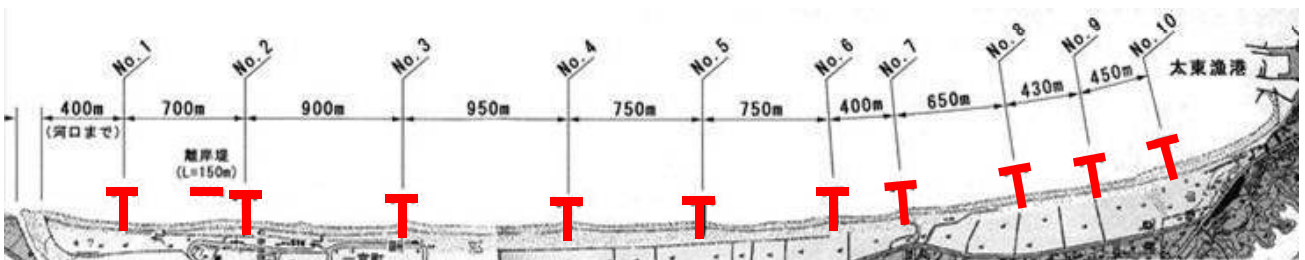
# 1. 事業の概要

## <事業の目的>

利用や環境など地域のニーズを踏まえながら砂浜を維持することにより、波浪等による海岸の侵食及び海岸保全施設の被災を防止し、背後地の人命及び財産を防護する。

事業着手年度  
昭和58年度

事業終了年度  
平成29年度



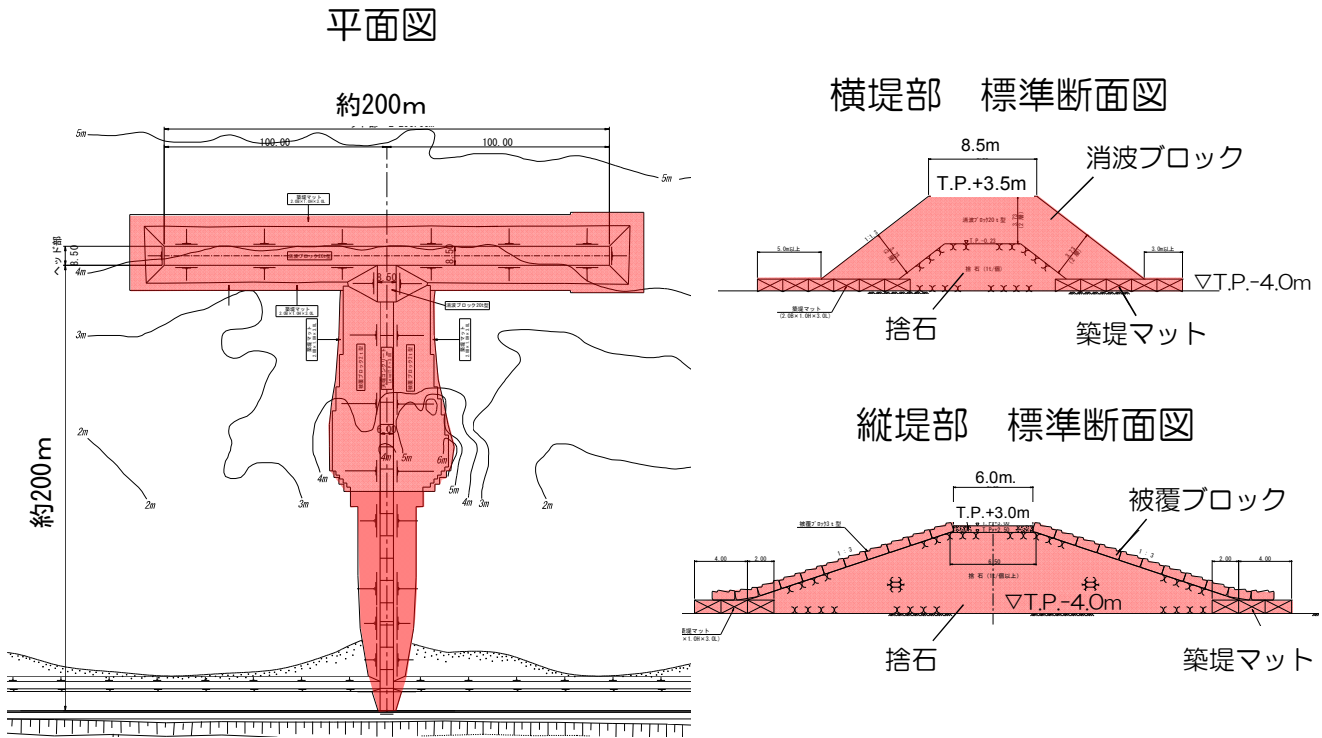
## 実施内容

◎ヘッドランド 4,255m (10基)

◎離岸堤 150m (1基)

4

# 1. 事業の概要（ヘッドランドの基本構造）



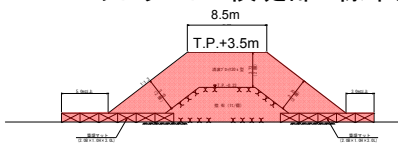
5

# 2. 事業の進捗状況

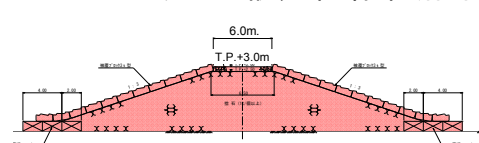


<b>実施内容</b> ◎ヘッドランド 4,255m (10基) ◎離岸堤 150m (1基)	<b>整備実績 (黒い部分)</b> ◎ヘッドランド 2,577m ◎離岸堤 150m (1基)
---	--

ヘッドランド 横堤部 標準断面図



ヘッドランド 縦堤部 標準断面図



	全体計画(億円)	投資事業費(億円)	進捗率(%)
全体	115	75.5	65.6
工事	115	75.5	65.6

6



### 3. 社会的情勢の変化（地域の意識）

#### 海岸事業に対する意識の高まり

「一宮の魅力ある海岸づくり会議」の開催

行政だけでなく、地域住民、海岸利用者、漁業関係者、学識経験者などが、防護・環境・利用を考慮した海岸侵食対策について協議を進め、より効果的な侵食対策を図っている。

本会議は、平成22年6月から8回開催している。



第8回 海岸づくり会議（H25.10.12）



一般公開調査（生物調査）

7

### 3. 社会的情勢の変化（海岸利用）

#### 周辺交通網の整備による利用増加の期待

これまでも、海水浴やサーフィン、観光地引網など海岸利用は活発であったが、圏央道など交通網の整備により海岸利用者の増加が期待される。



サーフィン



海水浴



上総十二社祭り



地引網漁



ビーチバレー



観光地引網

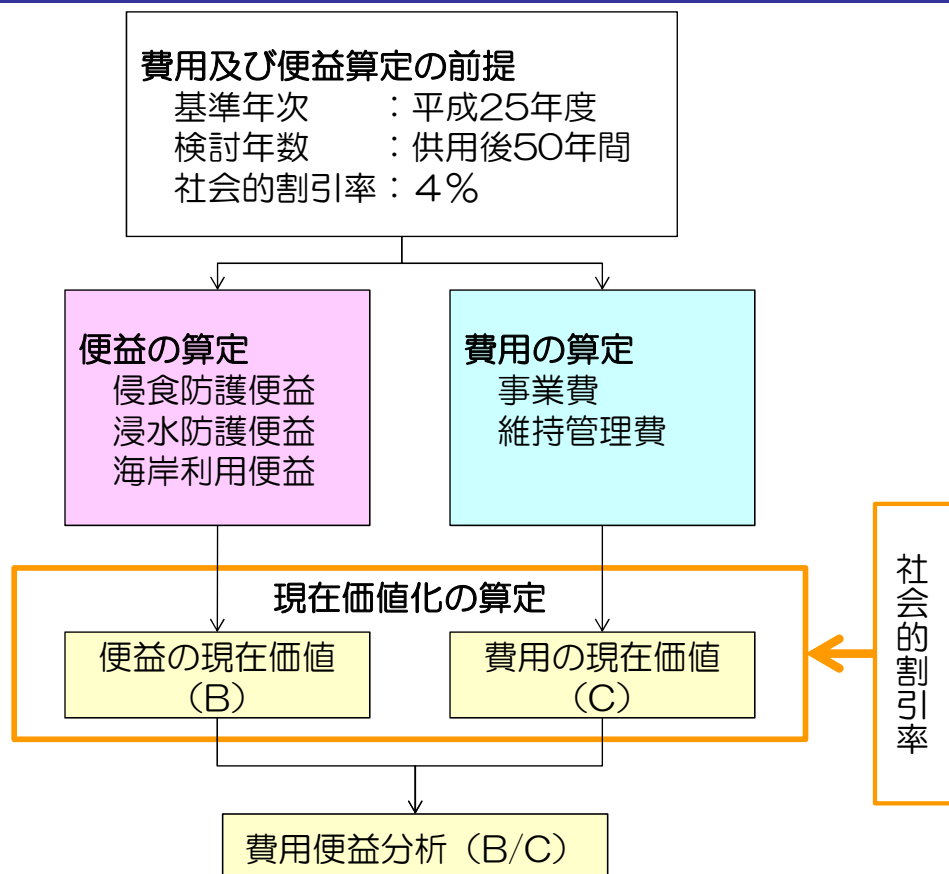


乗馬

その他  
納涼花火大会  
日常的な散策

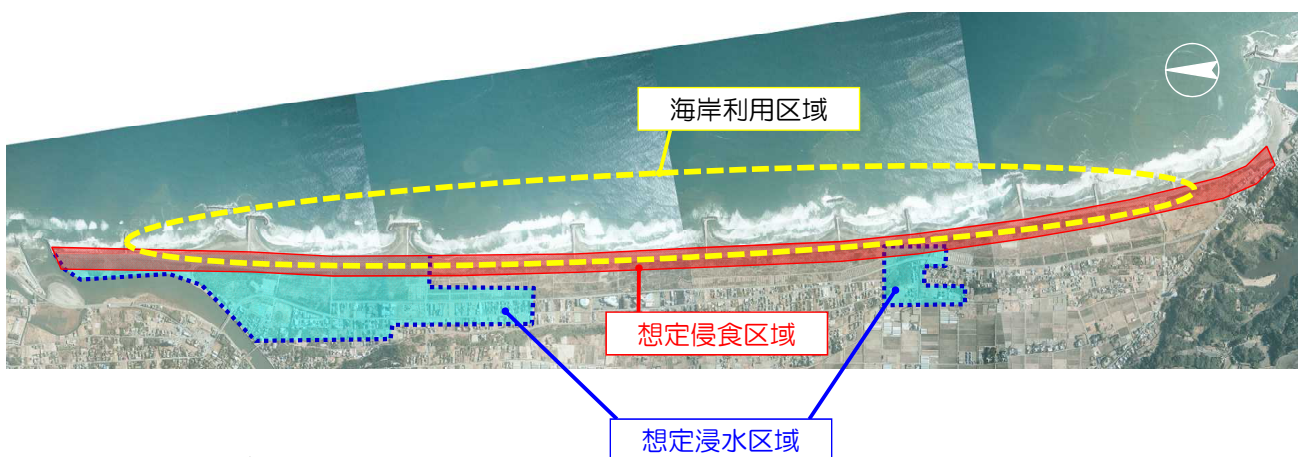
8

## 4. 事業の投資効果（便益算定手順）



9

## 4. 事業の投資効果（想定区域）



### <想定被害>

- ・ 想定侵食区域：70ha
- ・ 想定浸水区域：72ha
- ・ 海岸利用者数：368,000人

10

## 4. 事業の投資効果（費用便益比）

### ◆便益

	侵食防護便益	浸水防護便益	海岸利用便益	合計
基準年	平成25年度			
単純便益(50年)	12億円	808億円	376億円	1,196億円
基準年における 現在価値 (B)	6億円	413億円	239億円	657億円

### ◆費用

	事業費	維持管理費	合計
基準年	平成25年度		
単純合計	110億円	24億円	134億円
基準年における 現在価値 (C)	157億円	16億円	173億円

### ◆費用便益比

B/C	3.79
-----	------

※費用及び便益の合計は、  
表示桁数の関係で計算値と異なる

11

## 4. 事業の投資効果（前回評価との比較）

	前回再評価 (H20)	今回評価 (H25)
費用便益分析指針	平成16年6月	
評価対象	ヘッドランド 4,255m	離岸堤 150m
事業費	115億円	
供用開始年次	平成16年度	
分析対象期間	供用開始から50年間	
基準年次	平成20年度	平成25年度
総便益 (B)	537億円	657億円
総費用 (C)	137億円	173億円
B/C	3.93	3.79

12

## 4. 事業の投資効果（便益に含まれていない効果）

○便益の計測が困難であるが効果が期待できるもの

①生物の生息空間確保	ブロック、捨石によって生息空間（隙間、石の表面積）が生まれ、生物増加が期待できる。
②人命損傷の抑止	侵食・浸水被害が防護されることにより、人命損傷の抑止効果が期待できる。



H20.9.21 朝日新聞より



隙間が生息空間になる

13

## 5. 事業の進捗見込み

利用や環境のニーズを踏まえながら侵食対策を実施してきた結果  
侵食速度の低減効果が認められる

- 海岸づくり会議の開催  
利用及び環境の意見を取り入れるため開催
- 想定汀線ラインまでの後退が認められない  
事業実施により侵食速度の低減へと繋がった

今後も、

利用や環境のニーズを踏まえながら、  
平成29年までに より効果的な侵食対策を実施する

- 事業効果の検証  
砂浜の維持・回復効果を検証し効果ある対策を実施する

14



## 6. コスト縮減

- 横堤の施工方法を陸上施工から海上施工に切り替える
  - 横堤の断面を変更する  
断面変更による効果低減は生じないことを確認している
  - 縦堤の施工規模を縮小する  
横堤施工のための仮設道路幅を確保する必要がなくなった
- 発生材や流用材を転用して使用材料のコスト縮減を行っていく
  - 築堤マットの中詰材に発生材などを使用する  
中詰材に他工事からの発生材を使用しても機能上問題ない

15

## 7. 対応方針（案）

事業を継続し、さらなる砂浜の維持を図る。

### <理由>

①事業の投資効果が十分見込める

費用対効果  $B/C=3.79 > 1.0$

②侵食対策に対する地域のニーズと意識が高い

地域住民や海岸利用者などから侵食対策の要望は強く

「海岸づくり会議」を開催するなど事業に対し意識が高まっている

③侵食低減効果がある

これまでの実施した対策は侵食対策として効果を発揮している

16